

第2回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議（スポーツリエゾン京都）

会議摘録

日 時：平成24年10月29日（金）午後3時30分～午後5時30分

会 場：京都市役所F会議室

出 席：＜委 員＞ 山下委員長，松永委員長代理，石野委員，飯田委員，雑賀委員，
高屋委員，檀野委員，安西委員，長谷川委員，森井委員
（欠席）吉田委員

＜京都市＞

（文化市民局市民スポーツ振興室）

西田市民スポーツ振興室長，下間京都マラソン担当部長，武内施設担当課長，土橋スポーツ振興課長 ほか

（オブザーバー）

教育委員会事務局体育健康教育室

＜京都サンガF.C＞ 池上 正（ホームタウンアカデミーディレクター）

1 開会（事務局）

2 委員長挨拶（山下委員長）

この会議にリエゾンという名称がついている。これは、多様なスポーツ団体間の連携や絆を生み出していくための要として機能するという使命がある。本日もまた、いくつかの団体が手を携えて協働型事業を進めていくヒントが得られたらと思っている。

3 新委員の紹介（飯田委員）

4 議事（事務局 資料2）

「スポーツの絆が生きるまち推進プラン（京都市市民スポーツ振興計画）の進捗について（平成24年度事業概要）」

資料説明（事務局・西田室長）

- ・ 山下委員長 ただいまの説明に対して、何か質問はあるか。
「するスポーツ」の欄の「ランニング環境の充実の検討」について聞き逃したみたいなので、具体的にどのようなことかご説明を再度願う。
- ・ 事務局(土橋課長) 京プランに掲げているが、京都マラソンをきっかけにして、ランニング人口が増加傾向にあるので、西京極運動公園内の園路に距離表示を行い環境整備に努める。また、公園ならば建設局，ランニングステーションをお風呂屋さんに設置するなら保健福祉局と関係する局との庁内の連絡会議を立ち上げ、市民に対してランニ

- ング環境の提供を少しでもお金をかけないでやっていきたい。
- ・ 松永委員 「ボランティアの仕組みづくり」で、具体的に何か行ったか、または、計画はあるのか。
 - ・ 事務局(下間部長) 第1回京都マラソンにボランティアに従事された方について十分に分析すること、また、次回に生かすようにすることが必要。
 - ・ 松永委員 今回のマラソンはボランティアにウェアは支給されていたが、マラソン終了後にトラフィカ京カードが配布されたが、そのタイミングで次につながる「仕掛け」ができればなお良かった。
 - ・ 森井委員 ソフトウェアの欄で「小中学校での夜間校庭開放事業」だが、私の近所の小学校では、夜9時半頃まで行っていて、しかも騒がしい。この事業の開催時間は決まっているのか。
 - ・ 事務局(土橋課長) 基本的には午後7時から午後9時と決まっている。ただし、それぞれの学区で運営委員会を設置してそこで柔軟な運営をしているかもしれない。
 - ・ 森井委員 する側はいいかもしれないが、年配者は迷惑である。
ルールは守るべきである。
 - ・ 檀野委員 騒音で裁判になった例もある。
 - ・ 山下委員 街なかでは騒音の問題はあるが、この「ソフトウェア」の趣旨は、自らが楽しむ機会を豊富に提供しようとすることである。騒音には配慮が必要だが、小中学校以外でも夜間に使用できる場所の提供は必要と考える。横浜に行った時に、オールナイトでサッカーを楽しんでいるのを見た。騒音だけで規制するとマイナスの方向に行ってしまうので、もう少し建設的な考え方があるのではないかと思う。
 - ・ 高屋委員 「夜間校庭開放事業」は区民のつながりにおいて非常に大きな役目がある。子供の使用制限があるが、体育祭の前になると子供たちの練習に必要なので認可している。区民の運動会は子供たちとのつながりが持てるので、校長や地域の保護者に許可をいただいている。
 - ・ 事務局(土橋課長) 地域の事情があると思うので、運営委員会で柔軟な運営をお願いしている。ただし、周辺住民には十分配慮が必要である。
こちらから、通知などで利用者に働きかけをしていきたい。
 - ・ 雑賀委員 私は山科区に住んでいる。普段は山科中央公園を利用しているが、今年は、山科中央公園が工事で使用できないので、市民スポーツ振興室にお願いして、ゲートボール、ペタンク、グラウンドゴルフの大会を勧修寺公園で初めて行った。でもそこは普段は利用種

- 目が野球のみなので、利用種目をもっと柔軟にしてもらいたい。それによって利用者拡大につながり収入が増えることになる。
- ・ 山下委員長 雑賀委員の発言には重要な意味を含んでいる。野球の場合、グラウンド整備面等で他の競技に使わせたくないということになるだろうと思うが、事務局はどう考えているのか。
 - ・ 事務局(西田室長) 42施設あるうち、土日の使用率が高いが、平日のは低い。土日の使用率に合わせて新規に施設整備はできない。できる限り経費を掛けずに施設の充実を図る必要がある面では、ただいまご意見いただいた、既存のスポーツ施設を有効活用することが必要と考える。
指定管理者とも協議を重ね、利用種目の拡大を図っていきたい。
 - ・ 松永委員 京都御苑のなかの運動場は京都市とは関係ないのか。
ゼミで使用する際に簡単に予約ができた。それも、野球限定であるため、普段から空いているようだ。
可能であるなら、京都市から、他の種目での利用ができるよう要望を出せないか。
また、市内にある公園に、中高年者が利用できる健康器具を積極的に置いてもらいたい。置くことによって身近なところで運動ができるため、市民スポーツ振興室から働きかけてもらいたい。
また、その使い方を体振さんなどと連携して、週に何回かレクチャーしてもらえればよいのでは。
そうすることによって、スポーツ実施率が上がると思う。
 - ・ 事務局(西田室長) 日常的にスポーツに親しめる環境づくりはプランにも掲げているので、身近な公園への健康器具の設置についてはできるのではないかと思いますので、建設局との連携を進めていきたい。
国の施設についても、相談していきたい。
既存施設の有効活用は大きなテーマと考えるので、今後も取り組んでいきたい。
 - ・ 松永委員 京都御苑では、隅の空スペースでペタンクをしたところ、すぐにガードマンがやってきて注意された。
 - ・ 事務局(西田室長) 当室所管のグラウンドは、多目的グラウンドと野球場があり、野球場はマウンドあるため、サッカー等で使用する際に注意が必要である。
また、まちなかの公園は制限があるため、公園所管課と連携が必要と考えている。
 - ・ 雑賀委員 「ニュースポーツの普及・振興の取組の強化」について、具体的

にどんなニュースポーツを考えているのか。

- ・ 高屋委員 右京では、スポーツ推進委員が中心となってニュースポーツを考えている。グラウンドゴルフとカーリングをドッキングしたものや、ソフトバレーボールを足で行うものなど、かなり面白いものである。
- ・ 雑賀委員 京都市老人クラブでは、スカイクロスを始めている。
- ・ 山下委員長 細かい点はあるが、総じて市民スポーツ振興計画は順調に進んでいるということでしょうか。

(一同賛同)

5 報告

(1) 「はばたけ未来へ！京プラン」実施計画の策定について（資料3）

資料説明（事務局・西田室長）

- ・ 山下委員長 京プランはスポーツ振興計画をバックアップするものか。
- ・ 事務局(西田室長) 基本計画の分野別計画がスポーツ振興計画であり、それを進めていくのが実施計画である。

(2) 「京都マラソン 2012」に係るアンケート調査等の報告（松永委員）

資料説明（松永委員）

（資料説明前のひとこと）

スポーツ振興計画が策定されてから 1 年半が経過したが、準備段階から携わってきた、計画が策定されてそのままではなく、毎年数値等も含め検証も必要である。

京都マラソンは「する、みる、支える」のどれをとっても契機となる大会である。

このアンケートは委託されたものではなく、持ち込み企画として行った。

京都の大学が研究の立場で協力しつつ、収集されたデータを京都マラソンにフィードバックする形でマラソンの活性化に協力する。また、このスポーツ振興計画の検証も併せて行うため、大会の 1 年前から準備していたものである。

- ・ 山下委員 このアンケートは我々が平成 22 年(振興計画策定前に実施したアンケート)に行ったものと調査した内容は同じか。
- ・ 松永委員 本来は京都マラソンだけのアンケートのつもりだったが、京都市からの依頼により、「する、みる、支える」を入れた。その部分については平成 22 年の調査と同じである。
- ・ 山下委員 先ほどボランティアのしくみづくりが必要と言っていたが、そのヒントとなるアンケートは行っていないのか。

- ・ 松永委員 それに関するアンケートは行ったが、分析できていない。一例を
 言うと、ボランティアに参加する人は、第1希望に配置されな
 ければ動機が達成されないようだ。今回は第1希望に配置されたの
 は半数程度であった。参加動機が達成できると、次のボランティ
 アにつながる。大変だが、主催者が参加動機をみたすような配置
 をすることにより、ボランティアの継続率が上がる。
- ・ 山下委員長 現代の「支える」スポーツは、「支える」ことが「する」イメージ
 になってきているようだ。今回のボランティアで、申し込んだが
 採用されなかった人は把握しているのか。
- ・ 事務局(下間部長) 断っているのではない。
 団体ごとで配置しているため、希望がかなわない個人はいると
 思う。
- ・ 松永委員 ボランティアに参加された方で、男性と女性の目的意識が大きく
 違う。女性の参加者は交流を求めて来られる方が多い。
 ボランティア終了後に互いに交流する方がいる。
- ・ 高屋委員 京都マラソンの京都市民の出走卒などは考えられないのか。
 応援の立場から、知り合いが多く出走すると応援し甲斐がある。
- ・ 下間部長 選ぶのが大変、結果として京都市民は 15%だった。京都は外から
 の申し込みが多い。

(3) 京都市を本拠地とするプロスポーツチームによる協働型事業に関する独自取組の報告(京都サンガつながり隊 池上 正氏)

私がサンガに就任して半年が過ぎるが、この間「京都サンガが街に何もしていない」と聞く。京都に来る前に千葉で同様の取り組みをしていた。このプログラムの内容はサッカーではなく、子供たちがつながることを主に活動している。2月から既に60校で実施し、10,000人以上が参加している。今の子供は危機的な状況にある。(言われたことしかしない。自分で考えない。すぐに答えを求める。許可を求める。など)これを解消するために発足した。

この先、私たちはスポーツ指導者セミナーを開催したい。これは、全てのスポーツの指導者が集まって、スポーツの意味を考えたい。健康になったり、楽しくなったり。今の小学生はストレスを感じているので、それを解放してあげるために体を動かすことが必要である。ぜひ見学に来てもらいたい。

- ・ 山下委員長 本日は、京都アストドリームスからの報告も予定しておりましたが、諸般の事情により割愛します。

本年度は、既存の団体間のみならず、プロスポーツとの連携を模索していきたいと思っています。せっかくの機会なのでアイデアを求める。

- ・ 雑賀委員 体協のダッシュなどの情報は参考になる。老人は連れ出す機会が必要だ。

老人クラブ連合会では参加者を増やす活動を行った。

- ・ 松永委員 指導者講習会を実施していると聞いたが、サッカーのみか。

- ・ 池上氏 サッカーのみもあるが、スポーツ全般も今後企画していく。

- ・ 松永委員 このような指導者講習会は体振やレクリエーション協会で応用できるので、サッカー以外の枠組みがあると、それを契機に「サンガを応援しよう」となる。

つながり隊を実施した担任の学校の先生のコメントも参考になるので、まずは単発でもいいので、サンガのプロのコーチから学ぶ講座の開催すれば、子供たちのみならず、京都市全体に広まっていく。

- ・ 高屋委員 子供のみならず、地域の皆さんにも興味深いものだ。夜などに企画してもらえれば人が集まりやすい。

- ・ 山下委員長 つながり隊などの社会貢献は大切だが、京都の市民は「冷たい」と聞く。
プロスポーツとしての特性を発揮する機会をもうけていただくのはひとつのアイデアである。

6 その他

- ・ 飯田委員 私は京都市障害者教養文化体育会館にいるが、所管が保健福祉局なので、スポーツに関する情報は一切入ってこない。利用者は障害者か高齢者がほとんどである。利用者拡大やスポーツ情報の発信ができるようになりたい。

- ・ 山下委員 計画にはアダプテッドスポーツの充実をうたっているのですが、充実をはかる必要がある。

7 閉会

- ・ 山下委員 他にご意見等がなければこれで終了する。